

しみず しょうぎ
清水 秀行

● 連合・事務局長

価値ある取り組みを 絶やすことなく磨き続ける

新年おめでとうございます。

日頃より労調協の取り組みへご理解とご支援をいただいておりますこと、心より御礼申し上げます。皆さまにとって本年が充実した一年となりますことをお祈りしております。

昨年は、元日に能登半島地震が発生し、多くの方々が困難な状況の中で新年を迎えることになりました。お正月の家族団らんの中を襲った大きな災害の光景に、日本中が衝撃を受けました。あれから一年が経過しましたが、今も記憶に新しいことと思います。そして、昨秋には豪雨災害も発生し、徐々に復旧し始めていた街並みに濁流が押し寄せるという光景に多くの方が胸を痛めました。

近年、一年を通して地震や風水害などの自然災害が各所で発生しています。特に、極端な大雨は地域を問わず発生している様子を目の当たりにすると、地球温暖化の影響ではないかと不安を覚えます。日本では猛暑が続き、四季を感じにくくなっているとも言われますし、そのような実感を私自身も感じることがあります。将来にわたって持続可能な社会を維持することは待ったなしの課題であり、気候変動の影響を最小限に止めるために私たち一人ひとりが日々の生活の中で取り組めることを地道に行うことが重要であると思います。

戦後80年の節目を迎えて

さて、年頭にあたり、連合事務局長の立場

から、いくつかの視点で新年を展望してみたいと思います。

一つ目は、今年は戦後80年の節目ということです。先の大戦の惨禍を直接経験された方々が少なくなり、悲惨な実相を伝える役割は次の世代へと移っています。そのような中、世界のいたるところで武力を用いた争いが絶えません。対岸の火事と見過ごすのではなく、80年前の出来事に改めて立ち返り、私たちが果たすべき役割をいま一度、見つめなおし行動に結びつける一年にして参りたいと思います。

労働組合は、「民主主義と平和なくして労働運動なし」との信念のもと、常に平和を希求する様々な取り組みを行ってきました。平和の担い手として、これまでの取り組みに誇りを持ちながら、80年の節目を機に、さらに平和な世界の実現に力を尽くして参りたいと思います。

ジェンダー平等をグローバルスタンダードへ

二つ目は、ジェンダー平等・多様性推進の取り組みは新たなステージを迎えることについてです。

連合は2030年までにジェンダー平等社会を実現するとの決意のもと、「連合ジェンダー平等推進計画」を策定し、取り組んで参りました。ゴールとなる2030年まで残り5年となり、昨年末からジェンダー平等推進計画



は、フェーズ2へと移行し、取り組みを加速させています。

残念ながら、日本のジェンダーギャップ指数は、依然として低迷し続けています。世界では、様々な取り組みにおいて男女同数の割合、すなわち50：50が当然のように実現しています。ジェンダー平等は、多様性の尊重の入り口としても重要な要素であると同時に、労働組合が重要視する人権問題でもあります。一つの性が社会的にも組織的にも役割を独占することは、社会の持続性はもちろんのこと、さらなる発展やその原動力となるイノベーションにとっても、決して有意義なことではありません。まさにこの点においても、ジェンダーにおける旧来からの性別役割分業に関する悪しき慣習を変えることができていません。“203050”の目標達成に向けて、わずか5年しかないという危機感を持ち、これまで以上に真剣に向き合い、結果を得られるよう力を尽くして参りたいと思います。

復活と再生、労働組合の価値を訴えよう

三つ目は、労働組合の組織率は、残念ながら年々、減少していることに真正面から向き合わなければならないということです。

このような状況は、労働組合に限らず、町内会や自治会、青年団、宗教団体、政党など、いわゆる中間団体と呼ばれる組織全般に衰退が見られると指摘されています。これまでは、組合員の利害の最大公約数を追求することで、メンバーシップを感じてもらえることができていたのかもしれませんが、多様化する組合員のニーズにより丁寧に向き合わなければ、労働組合に加入している意味を見出してもらえなくなっているのだと思います。そして、同時に、労働組合に加入していない方々に対して労働組合はどう接していくのかということも問われているのだと思います。

そのためには、連合運動もその領域の幅を広げていくことが必要であると考えています。多様な価値観を共有できる方々との積極的な対話と連帯を進めて参ります。

私たちが取り組んできた労働運動、組合運動、組合活動は、確実に社会を支え、進歩させてきたことは間違いありません。今を担う私たちは、知恵を絞りながら労働組合のそのような価値をしっかりと保ち、多くの方々に訴える努力を惜しんではならないと思います。

今年の干支は、巳（へび）です。脱皮を繰り返すへびになぞらえ、「復活と再生」の年

として位置付けられているそうです。その意味においても、労働組合の価値を広く知ってもらい、減少する組織率に歯止めをかけ、再び多くの働く者が集い、互いに協力しながら、労働組合が良い職場、良い社会をつくる原動力となるよう努力する一年にして参りますので、引き続き本年も連合へご期待をお寄せください。